

2007年3月16日

カンボジア 2008 年人口センサス試験調査(Pilot Census)の実施状況(メモ2)
- Kratie 州における試験調査 -

1. 試験調査の実施者及び同行者

(1) Sandan Village

Mr. Sok Borith, Bureau Chief, NIS (Sandan Village, Supervisor)
Ms. Chan Phanny, Staff, NIS (Sandan Village, Enumerator)
Ms. Prak Chanthan, Director of Planning Department, Kratie
Mr. Kim Net, Bureau Chief, National Institute of Statistics (NIS, Counterpart)
Mr. F. Nishi, Chief Advisor
Ms. Takako Kanamuro, JICA Expert

(2) Srae Sdau Village

Mr. Meng Kimhor, Deputy Director, NIS (Srae Sdau Village, Supervisor)
Mr. Min Khoeun, Staff, NIS (Srae Sdau Village, Enumerator)
Vice Village Chief of Srae Sdau
Ms. Prak Chanthan, Director of Planning Department, Kratie
Mr. Kim Net, Bureau Chief, NIS (Counterpart)
Mr. F. Nishi, Chief Advisor
Ms. Takako Kanamuro, JICA Expert

2. 試験調査への同行の日時

(1) Sandan Village

2007年3月5日 午後2時～

(2) Srae Sdau Village

2007年3月6日 午前9時～

3. 試験調査の概要

カンボジア計画省統計局(NIS)は、2008年3月3日現在でカンボジアの全国民(外国人を含む)を対象とした人口センサスを実施する予定である。2008年人口センサスは、1990年のカンボジア和平成立以後、1998年以来第2回目となる。

今回の試験調査は、2008年人口センサスの丁度1年前に実施され、最後の試験調査となる。その実地踏査は、建物・世帯名簿の作成(House Listing)、調査票記入(Enumeration)の順に実施され、House Listingは2月26日の週、Enumerationは3月5日の週に、Kratie州を含め5つの州で実施されることになっている。

今回出張したKratie州は、首都Phnom Penhから約340km北東に位置し、メコン河沿いの地域である。Kratie州には、上述のとおり、3月5日から6日にかけて出張したので、Enumerationに同行することが主な目的である。

Enumerationでは、House Listing時に補完した調査区要図(EA Map)を基に、人口センサスのステッカーを確認しながら、各調査区の全建物・世帯を訪問し、調査票(Form B)に記入する。

4. 試験調査の実施状況

(1) Sandan Village

同 Village のうち、EA No.2 の Enumeration に同行した。EA No.2 は、Kratie 市の中心部から車で 45 分程度の位置にある。都市部ではないが、メコン河沿いを走る狭い道路の両側に住宅が立ち並ぶ地域で、住宅と住宅の間には比較的空間がある。世帯数は 106 世帯。

実地踏査時に気づいた点等は以下のとおりである。

指導員及び調査員は NIS の現役職員であった。

調査区要図がかなり大まかに書かれていた。ただし、実地踏査に支障はなかった。

回答者が調査員からの見返り（ギフト等）を期待するケースがあった。

世帯の代表者が不在のため、すぐには調査できない場合があった。

回答者が識字可能か否かによって、回答内容の質に差が生じている。

指導員及び調査員の手当は、約 USD200-/14 日である。

インタビュー方式の調査であり、また、調査票（A4）が 6 ページもあるので、1 世帯を調査するだけでも 40 分くらいかかることがあった。

(2) Srae Sdau Village

同 Village のうち、EA No.4 の Enumeration に同行した。EA No.4 は、Kratie 市の中心部から車で 5 分程度の位置にあり、Phnom Penh - Kratie を結ぶ幹線道路に面している。都市部ではあるものの、ほとんどが農家である。住宅に畑や家畜小屋が併設されている住宅が多く、住宅と住宅の間に比較的空間がある地域である。世帯数は 66 世帯。

実地踏査時に気づいた点等は以下のとおりである。

この調査区も、指導員及び調査員は NIS の現役職員であった。

調査区要図に主要な道路の記入漏れがあった。

回答者の教育水準が低い場合には、調査に時間がかかりがちである。

回答者が少数民族等の場合には、十二支が習慣となっていないため、年齢の把握が困難である。

地方社会経済改善プログラム（SEILA）により井戸が整備されており、水設備の状況は良い。カンボジアの 3 月は乾季であるため、農閑期となっており、世帯の代表者への面会が比較的容易である。

住宅が所有する田畑が約 10km も離れている場合がある。農業の場合には、定義上、作業場は自宅となるが、実際には相当な距離を移動している場合がある。

耕作の外、家畜飼育、商店経営等を兼業している住宅が多いが、収入は耕作によるものが主である。